

仲間と学ぶ宿泊体験教室推進校 土浦第二中学校

1 取組の概要及び成果等

(1) 取組の概要 第1学年による4泊5日の宿泊体験学習

	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目
午前	・学校で授業	・アイススケート体験 (笠松運動公園)	・学校で授業	・野外炊飯 ・救命講習 (土浦消防署主催)	・奉仕作業 ・読書
午後	・入所式 ・星座観察	・アイススケート体験 (笠松運動公園) ・学習会	・学校で授業 ・学習会	・野外炊飯 ・救命講習 (土浦消防署主催) ・学習会	・学校で振り返りの記入

(2) 特に工夫や配慮をした事項

- 生徒と教師，生徒相互が寝食を共にし，友情や信頼関係を深める。
特に学校の全職員と生徒の信頼関係を深めるために，1学年担当の職員以外にも全員1泊し，入浴や食事，自主学習の時に巡回しながら指導にあたるなど，多くの生徒とコミュニケーションが図れるような場の設定をした。
- 公共施設を正しく利用させることにより，社会的なルールを身に付けるとともに，自然に親しみ，心身を鍛える。
アイススケートを体験することで，公共施設の使い方のマナーを身に付けさせ，更に指導員や保護者とふれあう中で，他者との関わり方を身に付けさせることをねらいとした。また，指導員を数多く配置したり，ヘルメット着用や，靴ひもの締め方などの身支度に注意を払うなど，けがの防止に努めることができた。

(3) 成果等

- 規則や時間を守り生活することをあらためて重要だと感じた生徒が多かった。
- アイススケート体験では，事前の注意や配慮が功を奏し，インストラクターの指導のもと，大きなケガもなく活動することができた。
- 野外炊飯では男女が協力し，調理や火の調整など仕事の分担を的確に行い，短時間で仕上げ，協力する大切さを知ることができた。
- 仲のよい友達とは，より一層信頼を深めると共に，普段交流の少ない友達と接することで友達のよい面を知ることができた生徒が多かった。
- 学習の時間では他学年の教師と生徒が学習を通し，信頼関係を深めることができた。

2 学校の推進体制と学校支援委員会の活動

(1) 学校の推進体制と学校支援委員会の活動の概要

- 学校支援委員会の開催を年間計画に位置づけ，該当年度の学年主任を中心に事業の推進にあたった。
- 長期の宿泊について，当該学年外の教職員のサポート体制を整備した。
- 学校支援委員会で宿泊体験学習の活動内容を検討した。(教科領域との関連，総合的な学習の時間との関連で体験活動内容を決定)
- 1学年の保護者代表をはじめ，学年委員とは何回も話し合いの場を持ち，宿

泊体験学習を実施するにあたって保護者や地域の方の意見を生かした活動にした。

(2) 成果等

- P T Aの学年委員とは密に連絡を取り、情報交換をすることができ、協力体制を作ることができた。救命講習やアイススケート体験では生徒のサポートをしてもらうことができた。
- 全職員が宿泊することにより、事前の計画作りの段階から職員同士の連携が深まり、全職員で取り組むという雰囲気が強くなった。特に3学年の職員には受験事務が忙しい中、積極的に協力してもらった。また、生徒と他学年職員の間関係も良好になった。
- 青年の家の職員の方には、細かいところまで配慮してもらい、協力して活動を実践することができた。特に食事では食物アレルギーの生徒のために、一人一人にあった食事を用意してもらった。

3 今後の課題と改善点

- 女性の職員が少ないため、夜間の女子生徒への対応に苦慮する事もあった。女性の指導員の確保が次年度以降課題である。
- 宿泊体験学習に保護者や地域の方が積極的に参加することで、生徒の様子をみてもらったり、一緒に活動したりすることを通して、学校の教育活動への理解につなげたい。